

国連ミレニアム開発目標報告



UNITED NATIONS

2015

7月6日米国東部夏時間(グリニッジ標準時間-4)
午前10時15分報道解禁

MDGs からポスト 2015 開発アジェンダへの移行

目標 1: 貧困と飢餓の撲滅はポスト 2015 開発アジェンダの中心となる

極度の貧困のなかで暮らす人々と飢餓に苦しむ人々の割合を半減させるという MDG のターゲットは、達成またはほぼ達成されましたが、極度の貧困と飢餓を世界から撲滅するという MDG 目標にはまだ遠く及びません。2015 年現在、8 億 2,500 万人がいまだに極度の貧困の中で生活し、8 億人がいまだに飢餓に苦しんでいると推定されます。貧困と飢餓の撲滅は依然としてポスト 2015 開発アジェンダの中核です。

残された極度の貧困と飢餓を撲滅することは困難な課題になるでしょう。最も苦しい境遇にある人々は、多くの場合、不安定な状況下や遠隔地に暮らしています。良い学校、保健医療、電力、安全な水、その他重要なサービスを利用することは多くの人々にとって依然として難しく、サービスを利用する機会は、社会経済上の地位、ジェンダー、民族、地理的条件によって制限されることがしばしばです。貧困から脱け出すことができた人々も、その脱出が不安定で一時的であることが多く、やっとな勝ち得たものを経済的打撃、食料不足、気候変動によって奪い取られる脅威にさらされています。

ポスト 2015 開発アジェンダは、こうした MDGs がやり残した仕事を引き継ぎます。貧困と飢餓を撲滅するとともに、持続可能で包括的な経済成長を促進し、人々がどこにいても繁栄を享受できるように、MDG 目標との残りの隔たりを埋められなければいけません。

目標 2: 教育における未達成の課題を ポスト 2015 開発アジェンダの上位に位置づける必要がある

初等教育の普遍化の達成はこれまでの 15 年間に大きく前進していますが、ポスト 2015 時代には新たな配慮が求められます。まさに現在、国際社会が中等教育の普遍化に目標の範囲拡大を図っている時期でもあります。MDGs から学んだことを土台に、特定の子どもの集団のニーズに合わせた施策を整える必要があります。特に、女子、少数民族や遊牧民の子どもたち、未成年労働に従事する子どもたち、障害を持つ子どもたち、紛争下や都市のスラムで暮らす子どもたちです。教育の質の向上のための投資および持続的な資金源の確保も不可欠です。

教育の進展が遅れば、学校に通うことができない子どもや若者に憂慮すべき影響を与えます。世界がポスト 2015 を見据える中、若者の読み書き能力を十分伸ばすことのできない地域について、その根本原因を熟考し、対処することが極めて重要です。また、子どもたちが教わった技能を十分に習得したかどうか、そして、21 世紀に必要な技能を教わっているかどうか、こうしたことを直接評価するための新たな方法を探求する必要があります。

目標 3: 男女間の不平等の根本原因を正す必要がある

これまでの 20 年にわたり、教育、雇用、政治における女性と女子の平等実現に向け大きな進展があった一方で、多くの隔たりが残されており、MDGs の取組がなかった領域では特にそうです。ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上をあまねく実現するためには、ジェンダーの不平等が見られる主要な領域で取り組むことが不可欠です。すなわち、ジェンダーによる法律上・実務上の差別、女性と女子に対する暴力、労働市場における男女間の機会の不平等、無給の介護・育児や家事労働の不平等な分担、資産や財産に対する女性の権利の制限、公私の意思決定の場面での不平等な参加などです。ジェンダーの視点をポスト 2015 開発アジェンダのすべての目標に組み込む必要があります。



目標 4: 子どもの生存は引き続きポスト 2015 開発アジェンダの中心課題とするべきである

5 歳未満幼児死亡率の削減のためには、政治的意志、堅実な戦略、十分なリソースが必要です。MDGs の進展によって幼児の死亡はこれまでになく劇的に減少しました。効果的で安価な治療、改善されたサービスの提供、政治的決意のすべてが貢献しています。しかし、世界全体ではいまだに毎秒 11 人の子どもが 5 歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。その多くは予防可能な死です。幼児の生存率を改善するためにもっと多くの取組が必要です。

非常に貧しい国も含め、かなり多くの国が、目標 4 を達成していることから、実現可能であることが分かります。何百万人も女性と子どもがいまだに予防可能な死の危険にさらされており、妊産婦、新生児、幼児の生存は引き続きポスト 2015 開発アジェンダの中心課題とするべきです。

目標 5: 妊産婦の健康状態の改善は ポスト 2015 の時代に向けた未達成のアジェンダの 1 つである

目標 5 が設定されたことで、妊産婦の死の削減と、誰もが利用できる性と生殖に関する保健医療の実現が重点的・集中的な取組となり、かなりの進展がありました。とは言え、開発目標やターゲットの達成には遠く及びませんでした。その結果、すべての人々が性と生殖に関する包括的な保健医療サービスを楽しむというアジェンダは、未達成のまま残されています。詳細な分析により、これまでの進展が不十分であり、極めて不均一であることが明らかになっています。

教育水準、居住場所、経済状態、年齢などのために弱い立場にある小グループの健康上の格差は、世界平均、地域平均、国家平均の数値には現れません。妊産婦の健康状態には大きな格差が残っており、性と生殖に関する保健医療サービスへのアクセスと利用実態についても、一貫した対応と監視が必要です。加えて、健康に関連するデータおよび出生と死亡の登録について、その利用可能性と品質の双方の不均質性を是正するため、国のキャパシティを強化する必要があります。こうした情報は、政策の優先順位を定め、リソースをより効率的に割り当て、妊産婦の健康状態や保健医療ケアへのアクセスの改善を測定する上で欠かすことができません。

目標 6: 健康に関する戦略的取組をポスト 2015 の時代に拡大する必要がある

健康は持続可能な開発の前提条件であり、指標であり、成果でもあります。ポスト 2015 開発アジェンダの一環として、これまでの進歩を維持するとともに、その上に新たな健康の課題を追加し、幅広い健康と開発のアジェンダに統合する力強い取組が必要です。ケアを拡大し、サービスと調査を強化し、大胆な政策と支援システムを確保し、予防策を改善するために、精力的な取組が必要です。また、この新たな健康アジェンダは、国民皆保険の拡大を通してサービスへのアクセスを確保し、除外をなくし、人々を守るために、健康に関する取組の範囲を広げる必要があります。あらゆる世代の人々の健康な生活を保障し、福利を促進するためには、こうしたすべての取組が必要です。

目標 7: 環境の持続可能性はポスト 2015 開発アジェンダの中心的な柱である

この 15 年間を通し地球規模で環境の持続可能性を確保するための取組が行われていますが、成果はまちまちです。世界が気候変動、食料や水の不安、自然災害のような深刻な環境問題に直面するなか、ポスト 2015 の時代に多くの課題が残されています。

MDGs の後継アジェンダをめぐる議論で浮かび上がっているテーマの 1 つに、環境問題を開発目標のなかに本格的に統合することの重要性があります。環境の持続可能性はポスト 2015 アジェンダの中心的な柱であり、持続的な社会経済開発と貧困撲滅のための必須の条件です。将来予想される環境問題を緩和し、あらゆる地域での暮らしを改善する上で、健全で管理が行き届いた多様なエコシステムとリソースは重要な役割を果たすことができます。したがって、将来に向けた開発アジェンダが、社会経済的持続可能性と環境の持続可能性の関連を反映し、環境を支柱として守り、強化することが不可欠です。

目標 8: 資金の拡大とイノベーションが ポスト 2015 開発アジェンダを実施する上で不可欠である

ポスト 2015 開発アジェンダ立上げの準備が進んでいますが、その規模と熱意は、十分な資金と、持続可能な開発を目指す活発なイノベーション、科学、技術分野の新たな取組みに裏打ちされなければなりません。

政府開発援助 (ODA) は、自国内で公的資金を十分に調達することが困難な国にとっては依然として非常に重要です。非譲許的公的融資との組み合わせや、民間資金・投資の活用をつうじて、ODA によって他の資金フローを惹きよせる潜在力に一層注目することが重要です。そのような市場がらみの仕組みは、ポスト 2015 開発アジェンダの資金調達において重要な役割を果たすと考えられます。

貿易を取り巻く展望が変化する中で、特にサービス貿易が拡大するとともに、市場アクセスの改善や課税以外の障壁への対応など、従来の方法を刷新することも求められます。また、開発途上国をその貿易の多様性や付加価値シェアに応じて、多角的貿易体制に強力に組み込むことも不可欠になるでしょう。

同様に、情報格差の拡大に対処することも極めて重要になります。情報格差が解決できて初めて、情報通信技術とデータ革命は、すべての人々に持続可能な発展をもたらすのに役立つ変革の力となるでしょう。